

令和5年度 学校評価報告書

学校教育目標		志を持ち、自ら考え行動できる児童の育成		重点目標	話を聴き、考えをつくることのできる子どもの育成					
		評価計画		自己評価			学校関係者評価		改善計画	
重点目標	目標達成のための方策(取組指標)★重点	成果指標	評価	結果(成果○と課題△)		評価	コメント	次年度における改善策(案)		
重点目標	学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>★学習規律(特に話の聴き方)、学び方の指導と評価の実施</li> <li>・「学びの名人」(月1回)、「あいづちあいいうえお」を活用した指導と評価</li> <li>★考えをつくり、交流する授業の実施</li> <li>・ノート指導と評価</li> <li>・1時間1回以上ペアやグループでの交流</li> <li>○基礎学力の定着に係る取組の実施</li> <li>・天の原タイムでの基礎問題の繰り返し(漢字、計算等)</li> <li>・家庭学習強調旬間の実施(学期1回)</li> <li>○海洋教育の充実</li> <li>・必然性のある体験活動の位置付け</li> <li>・探究的活動を促すストーリーマップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話の聴き方に関する意識</li> <li>・児童評価(できた児童が80%以上)</li> <li>・教師評価(できた児童が75%以上)</li> <li>○考えをつくるに関する意識</li> <li>・児童評価(できた児童が80%以上)</li> <li>・教師評価(できた児童が75%以上)</li> <li>○市販テストでの達成</li> <li>・学級の平均点が、単元テスト期待得点以上達成</li> <li>○家庭学習の提出90%以上</li> <li>○海洋教育に関するアンケート</li> <li>・児童評価(自己課題を設定し進んで調べてまとめることができた児童が80%以上)</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師評価・児童評価共に成果指標は到達「あいづちあいいうえお」を提示したり、全校朝会で話の聴き方のよかった場面を紹介したり、1か月に一度自己評価をしたりすることで、話し手が伝えたいことを考えながら聴くことができるようになってきた。</li> <li>○ヒアリングシートを用いて対話活動を位置付けたことで、当初より自分の考えを書ける児童が増えた。まだ個別の指導が必要な児童もいる。</li> <li>△天の原タイムに複数指導体制を組んで指導したが、国語の読解力や語彙力の向上が今一步だった。問題数が少なかった。</li> <li>○児童の身近な環境問題に対する関心や課題解決意欲が高まった。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の自己評価は適切である。</li> <li>・重点指導達成度を明確にして、毎月点検してあることは、学校の取組姿勢のよさを感じる。</li> <li>・聴く力が育っているのは、素晴らしい。</li> <li>・目標達成に努力してあることが見える。すぐに成果に結び付かないと思うが、少しずつ目標に近づけてもらいたい。</li> <li>・授業内容が分からない子への対応も少人数で頑張っている。</li> <li>・子ども達の取組成果をぜひ地域にも知らせてほしい。</li> <li>・先生方のゆとりある指導ができればよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数の指導の継続・拡充を図り、基礎学力の育成に努める。</li> <li>・国語は帯の時間に読解プリントに取り組み、読む力をつける。単元テストの結果をもとに復習の時間を設定し、複数で指導にあたる。(下学年担任→上学年へ)</li> <li>・導入を工夫し、単元の目標や一単位時間のめあてを明確にもたせて、学習意欲を向上させる。</li> <li>・学習規律(時間厳守等)と支持的風土づくりへの取組の徹底を図る。</li> <li>・本年度の海洋教育の活動実績をもとに、カリキュラムや学習内容を見直す。地域や保護者への発信まで視野に入れて指導していく。</li> </ul>		
	人間関係力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「あ・そ・ふ・じ・さん」の取組への評価の実施</li> <li>★挨拶運動取組期間の設定と評価</li> <li>・清掃リーダーの評価と児童の評価</li> <li>・名札着用に向けた指導と評価(日常)</li> <li>かかと揃えに向けた指導と評価(日常)</li> <li>・チャイム席に向けた指導と評価(日常)</li> <li>・「さん」付けのその場指導(日常)</li> <li>★「ありがとう」「ごめんなさい」等の優しい言葉遣いへの評価の実施</li> <li>・「ありがとう」等、その場指導の徹底</li> <li>○学級活動の充実と友だちのいいところ見つけの評価の実施</li> <li>・毎日の帰りの会等での児童、教師の評価</li> <li>・話し合い活動、集会活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○よく聞こえる声での挨拶の意識</li> <li>・児童評価(できた児童が80%以上)</li> <li>・教師評価(できた児童が75%以上)</li> <li>○清掃9月の児童評価80%達成</li> <li>名札着用 年間の児童評価90%達成</li> <li>かかと揃え11月児童評価80%達成</li> <li>チャイム席年間児童評価90%達成</li> <li>「さん」付け7.12月児童評価80%達成</li> <li>○優しい言葉遣いの意識</li> <li>・児童評価(できた児童が80%以上)</li> <li>・教師評価(できた児童が75%以上)</li> <li>○生活アンケート(自己概念)</li> <li>・0.9P以上(上限値1.5 下限値-1.5)</li> <li>○生活アンケート(友だちとの関係)</li> <li>・1.1P以上(上限値1.5 下限値-1.5)</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童会の挨拶ボランティアの取組により、聞こえる声で気持ちのよい挨拶をする児童が増えた。</li> <li>○6年生をリーダーとして、時間いっぱい掃除をする児童の姿が多く見られた。</li> <li>△靴やトイレのスリッパそろえや名札着用は、月目標の時は徹底できたが、日常となると難しかった。</li> <li>○日々のその場指導と毎月の振り返りで「ありがとう」「ごめんなさい」は言えるようになってきている。</li> <li>△生活アンケートの自己概念が低い。授業で「わかった」「できた」が実感できていない。自分のよさを認識する場の設定や教師の肯定評価が少なかった。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の自己評価は適切である。</li> <li>・6年生で登校班のリーダーとなって挨拶を進んでしてくる子も見られるようになった。</li> <li>・全体として良くなっている。</li> <li>・子どもが安心して過ごせる学級づくりに努力してもらっている。</li> <li>・子どもによって指導の仕方が違うと思うので、1人1人の性格を見ながら細やかな気配りが必要である。</li> <li>・評価委員が分かりやすい言葉で(教育用語はなるべく使用せず)説明する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・M-HATで取り組んでいる基本的な生活習慣の確立については、繰り返し指導して徹底を図る。やることの意義を理解させて、言われてするのではなく、自分から進んでできるようにしたい。</li> <li>・毎月1回の登校班の振り返りや日常において、挨拶のよさに気付かせていく。上靴揃えやスリッパ並べの状況を可視化し、実践意欲を高める。</li> <li>・「できた・わかった」が実感できる振り返りの場を多く設定する。主体的に話し合い、協働して実践する学級活動の時間の充実を図る。</li> </ul>		
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>★体育学習での運動量60%以上の実施(確保)</li> <li>・移動はきびきびすることの徹底</li> <li>・主運動の時間の確保(25分~30分)</li> <li>★外遊びの奨励の実施</li> <li>・週3回(1日15分以上)遊ぶ時間を設定→朝・中休み・昼休み</li> <li>○走力と敏捷性、筋持久力を高める運動等の実施</li> <li>・体育学習の準備運動での取り上げ→ランニング、おむたっ子ストレッチ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○きびきびした動き</li> <li>・児童評価(できた児童が80%以上)</li> <li>・教師評価(できた児童が75%以上)</li> <li>○週3回(1日15分以上)の外遊び</li> <li>・児童評価(できた児童が80%以上)</li> <li>・教師評価(できた児童が75%以上)</li> <li>○体力テスト(50m走、反復横跳び、上体起こし)での県平均達成</li> <li>・6月記録より向上</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リレー大会や運動会を機に、体育の時間はたくさん動く、素早く動くという目標を達成できた児童が増えた。</li> <li>○業間休みや昼休みに、たくさんの児童の外で遊ぶ姿が見られた。</li> <li>○共通の準備運動を基に、走力に対する児童の意識を高めていくことができた。</li> <li>△体力テストの結果、特に敏捷性や筋持久力に関しては向上せず、取組の工夫が必要である。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の自己評価は適切である。</li> <li>・運動会できびきび動く姿を見ることができた。</li> <li>・外遊びをしている子どもが多いのは、健康保持や体力づくりから良いことである。</li> <li>・取り組む方策が具体的で子どもの変容が分かる評価ができている。</li> <li>・運動の楽しさを知ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の場所移動には、3歩以上ダッシュを心がけさせる。</li> <li>・体育の時間は、主運動につながるアナログを実施する。</li> <li>・バトン Rocket や縄跳び台、業間走など体力向上の場や時間を設定する。</li> <li>・敏捷性や筋力等、体力テストで低い能力に関しては、再度測定する場を設ける。</li> </ul>		
	いじめ防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>○早期発見・早期解消の取組の実施</li> <li>・毎月の児童アンケート、教師チェック、情報交換会等</li> <li>・毎回、アンケート結果に基づく教育相談</li> <li>・関係者会議での状況、取組の共有</li> <li>○教職員のいじめに特化した研修の実施</li> <li>・職員研修(学期1回)</li> <li>・いじめ防止対策委員会(年3回以上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○認知したいじめの早期解消</li> <li>・4ヶ月以内の解消100%</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種アンケート調査やSC(スクールカウンセラー)との連携した取組、いじめ防止対策委員会と児童理解会議の計画的な実施ができ、担任による日常の個に応じた丁寧な指導が図られ、早期解消につながった。</li> <li>△いじめ防止について、早期対応はできたが、いじめられた児童がその後、安心して登校できているかの継続的な見取りが薄くなりがちだった。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の自己評価は適切である。</li> <li>・いじめの早期発見・早期対応に努められている。次年度はいじめを生まない学校づくりを具体的方策で取り組んでほしい。</li> <li>・いじめの問題は将来にかかわることなので丁寧な指導をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーを活用したいじめ防止のための教職員研修会を学期に1回は実施する。</li> <li>・その日のうちに、管理職への報告・連絡・相談を徹底する。</li> <li>・個に応じて中心となる教職員を決め、チームを組んで組織的に対応する。継続的な見取りや指導も怠らない。</li> </ul>		
不登校防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>○未然防止、早期解消の取組の実施</li> <li>・毎月の児童アンケート、毎週の欠席状況調査とその結果に基づく教育相談</li> <li>・関係者会議での状況、取組の共有:適宜</li> <li>○福岡アクション3等の実施の徹底</li> <li>・マンツーマン対応、3日連続欠席児童対応等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不登校兆候児童数(15日以上)</li> <li>・昨年度より減少</li> <li>○不登校児童数(30日以上)</li> <li>・昨年度より減少</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎日の欠席状況の把握、児童アンケートをもとにした教育相談、気になる児童についてのSSW(スクールソーシャルワーカー)や市教育相談室等の関係機関と連携した組織的対応で、改善が見られた。</li> <li>△家庭の事情で欠席する児童へのアプローチが課題である。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の自己評価は適切である。</li> <li>・不登校児童への対応は難しいと思う。学校だけでは限界がある。ぜひ関係機関とつながって頑張ってもらいたい。</li> <li>・小さい時は家庭教育が大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未然防止のアクションや早期発見・早期対応アクションを徹底する。</li> <li>・家庭の事情で欠席する児童については、SSWやSC等の関係機関と連携して児童や保護者と話し合いの場をもち、個別最適な学びの方法を考えていく。</li> </ul>			
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定時退校日の設定とその実施</li> <li>・毎週1日の設定と職員室黒板への明記</li> <li>○働き方改革委員会等による取組の推進</li> <li>・毎月、時間外勤務状況の把握と面談</li> <li>・学期1回の校内研修による働き方の振り返りと改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間外勤務時間</li> <li>・毎月の時間外勤務時間の平均45時間 → 40時間</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水曜日の午後に会議や研修を精選して設定したことで、他の曜日に学級事務や教材研究、授業の準備等を行うことができた。</li> <li>△学校行事前や通知表作成前は、超過勤務時間が多かった。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の自己評価は適切である。</li> <li>・水曜日の放課後の時間を有効活用してあることが窺える。</li> <li>・働き方改革と先生方の子どもに対する愛情のこもった指導の両立ができればよいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も水曜日の午後の有効活用を図っていく。会議や研修を必要不可欠なものだけに精選する。</li> <li>・成績をまとめる7月、12月、3月は下校時刻を早め、学級事務の時間を確保する。</li> </ul>			

◇ 評価について  
 ・【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)  
 ・【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである

# 令和5年度 学校評価報告書

評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画
領域	評価の観点	評価指標(①取組指標または②成果指標)	評価	結果(成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策(案)	
教育課程 学習指導	・ 学習規律や学び方の育成	○ ①「天の原小学校 学び方」「あいつちあいうえお」の指導と評価の実施 ②話の聴き方75%達	4	○ 目と耳と心で聴くや反応の仕方の継続指導で定着してきた。	A	・ 学校の自己評価は適切である。聴く力の育ちは素晴らしい。	・ 授業の開始と終了時刻の徹底(管理職の見回りや指導,毎学期の担任による評価の実施)	
	・ 基礎学力の定着	○ ①天の原タイムで基礎問題の実施、家庭学習強調旬間実施(学期1回)②単元の期待得点達成	3	△ 国語の基本的な知識・技能の定着が不十分である。	A	・ すぐには難しいと思うが、少しずつ向上させてもらいたい。	・ 国語科・算数科の授業や天の原タイムにおける複数指導の実施	
	・ 海洋教育の充実	○ ①探究的活動を促すストーリーマップや必然性のある体験活動の実施 ②児童意識80%	4	○ 身近な環境問題に対する関心や課題解決意欲が高まった。	A	・ 子ども達の取組成果をぜひ地域にも知らせてほしい。	・ カリキュラムと学習内容の見直し,発信まで視野に入れた単元構成	
進路指導	・ 望ましい勤労観の醸成	○ 体験活動の充実(縦割掃除,ボランティア体験,委員会活動,係活動等)	4	○ 学校が多くの人々の働きで支えられていることの理解が深まった。	A	・ 学校の自己評価は適切である。	・ 発達段階に応じたキャリアパスポート活用とその見取り	
	・ キャリア形成と自己実現	○ 学級活動の時間において現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成の実施	3	△ キャリアパスポートを効果的に活用することができなかった。	A	・ 引き続き,児童に役割をもたせた体験活動を充実させ,継続的な指導をお願いしたい。	・ キャリアパスポートを活用した学級活動(3)の実施	
生徒指導	・ 校内生徒指導の充実	○ ①全教職員による児童理解会議の実施(毎月1回)	4	○ 共通理解と組織的対応で,登校できるようになった児童も多い。	A	・ 学校の自己評価は適切である。	・ 気付いたその日のうちに管理職へ報告・連絡・相談することの徹底(職員室に言葉の掲示)	
	・ 教育相談の充実	○ 学校生活アンケート等と関連した面談の実施(毎回)SC・SSWの活用(日常)	3	△ カウンセリングや研修へのSC活用が少なかった。	A	・ 早期発見・対応に努められている。将来にかかわるので丁寧な指導をお願いしたい。対応は学校だけでは限界がある。ぜひ関係機関とつながってほしい。	・ スクールカウンセラーを活用したいいじめ防止研修の実施(学期に1回)	
	・ 問題行動への組織的対応	○ 問題行動やいじめの早期解決(4か月以内)	4	○ 担任の素早く丁寧な指導がいじめの早期解消につながった。	A		・ 個に応じて中心となる教職員を決定。継続的な見取りや指導の重視	
保健管理	・ 保健管理体制	○ 環境衛生(教室換気,採光,トイレ,飲料水等)の管理(毎月の安全点検の活用)	4	○ 養護教諭が毎日,保健室の来室状況を紙面で具体的に報告したことにより,対応策をその都度講じることができた。	A	・ 学校の自己評価は適切である。	・ 養護教諭と担任,管理職との報告・連絡・相談を密にした,組織的な対応や指導の実施	
		○ 保健室報告(毎日)の共有と終礼等での全体への周知						
安全管理	・ 校内の安全管理	○ 毎月の安全点検の確実な実施(第1金曜日まで)とそれを受けての素早い修理・改善	4	○ 毎月期日までの安全点検の実施や素早い修理・改善ができた。	A	・ 学校の自己評価は適切である。	・ 保護者や見守り隊,まちづくり協議会,警察との素早い情報共有・連携	
	・ 危機管理体制の整備	○ 避難訓練,防犯教室,交通教室等の実施(年4回)通学路の安全点検,見守り隊との連携,地域との情報共有	3	○ 地域の協力で,危険に関する情報を提供してもらったことができた。	A			・ 事故が起きないように,管理徹底,定期的な点検を通して,未然防止に取り組んでほしい。
特別支援教育	・ 特別支援教育の推進	○ 児童理解会議の実施(毎月)交流学习の充実	3	○ 毎月の会議で情報交換したことで,共通理解と指導の充実が図られた。就学相談にもつながることができた。	A	・ 学校の自己評価は適切である。	・ 発達障害の理解のための教職員研修会の実施	
		○ 個別の指導計画作成,実施と評価(学期1回)						
組織運営	・ 重点3部会の機能化	○ 個別の対応に向けた関係機関や保護者との連携(随時)	3	△ 各部会での毎月の取組はできたが,教職員の重点目標達成に向けての主体性や評価・改善の動きについては十分ではなかった。	A	・ 学校の自己評価は適切である。	・ 学期前に個別の教育支援計画や指導計画を交流学年や学級と共通理解して支援に臨む	
		○ 重点目標達成のための重点3部会(知・徳・体)の実施(毎月1回)						
研修	・ 主題研修の推進	○ 各教職員の自己評価に基づく校務の遂行(学期に1回)	3	○ 研究授業で単元構成や学びを深める発問について理解できた。	A	・ 学校の自己評価は適切である。	・ 対話的活動など,主となる手立ての有効性の検証(個の変容を追うこと)	
	・ 一般研修の推進	○ 全員の授業公開と主題研究の日常化	3	△ 対話的活動の効果の検証が十分ではなかった。	A			・ 先生方の協働した研修が充実することを望む。働き方改革も大切だが,先生方の子どもに対する愛情のこもった指導も大切で,両立できればよいと思う。
	・ 初任者研修の充実	○ 道徳,人権・同和教育,特別活動,ICT等に係る研修の推進	3	○ 全員による協力体制で指導・助言がよくできた。	A			・ ICT活用の推進(教職員研修や実践交流会の実施)
教育目標 学校評価	・ 本年度の重点目標の達成	○ 全員協力体制による初任者への指導・助言	4	○ 毎月,評価を数値化し改善を図りながら進めることができた。	A	・ 学校の自己評価は適切である。	・ 定期的な教師評価・児童評価の実施	
	・ 学校評価の実施と評価	○ 重点目標の達成状況の評価とその改善(毎月)	4	○ 重点目標の具現化に向けて,定期的な評価を実施できた。	A			・ 重点指導達成度を明確にして,毎月評価してあることは,学校の取組姿勢のよさを感じる。
情報提供	・ 情報提供のネットワーク体制づくり	○ 学校生活アンケート等と関連した面談の実施(毎回)SC・SSWの活用(日常)	4	○ 毎日のMボード掲載や,通信の定期的な発行,配信メールによる緊急連絡等ができた。	A	・ 学校の自己評価は適切である。	・ 地域のみならず,協議会など,情報発信の場の有効活用	
		○ 学校通信や学年・学級通信等の定期的な発行,及び緊急連絡メール配信やMボードの定期的な発信	4	○ 毎日のMボード掲載や,通信の定期的な発行,配信メールによる緊急連絡等ができた。	A			・ 今後も引き続き,地域への発信をお願いしたい。
保護者・地域との連携	・ 保護者や地域住民との連携	○ 家庭学習強調旬間の設定(学期に1回)	3	○ リー大会や運動会,学習発表会等の行事を通して,連携できた。	A	・ 学校の自己評価は適切である。	・ M-HAT事業の広報による参加率の引き上げ(保護者や地域の方への参加の呼びかけ)	
		○ 学習参観,学校や地域の行事等の学校開放,小中一貫教育(M-HAT)における保護者,地域との連携(随時)						
教育環境整備	・ 校内の環境整備	○ 廊下掲示板や教室背面,花壇等の教育環境の整備	3	△ 教室の背面は常に整備できたが,廊下掲示板や花壇の整備に関して,定期的に行うことが難しかった。	A	・ 学校の自己評価は適切である。	・ 年度当初の廊下掲示板と花壇の担当確認と毎月の管理職による整備状況の見取り	
		○ 廊下掲示板や教室背面,花壇等の教育環境の整備	3	△ 教室の背面は常に整備できたが,廊下掲示板や花壇の整備に関して,定期的に行うことが難しかった。	A			・ 児童の心の落ち着きや登校意欲の向上のために,清潔で潤いのある環境をお願いしたい。

◇ 評価について

- ・【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)
- ・【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである